

採択された事業一覧

地区	事業内容
伊豆大岡	【東部ハウスみかん部会】 樹勢を強化させ反収・品質向上を図るための光合成促進機4台導入
	【三島函南ブロッコリー組合】 先進技術の水分活性化技術による出荷物の鮮度保持を図るDENBA3.0導入
	【三島セルリー組合】 難病害発生抑制効果に向けた先進技術導入試験の温湯種子消毒機の導入
	【三島レタス組合】 レタスの土壌病害対策と枝豆の鳥害対策に向けた育苗用の共同利用ハウスの新設
	【三島馬鈴薯部会】 収穫遅れの軽減による品質維持に向けた馬鈴薯自走式収穫機の導入
	【三島函南甘藷部会】 SNSを活用した新顧客獲得に向けた販売戦略による動画制作
	【三島函南苺委員会】 炭そ病対策に向けた「オキソパワー5」の実証試験
三島函南	【みしまメロン部会】 収穫適期と果実内腐敗病を判断するためのハンディ型非破壊糖度計の導入
	【函南秋冬野菜部会】 定植作業のスマート農業を図るための部会共用全自動苗移植機の導入
	【伊豆の国苺委員会】 炭そ病対策を図るための部会共同のナノバブル水製造機導入
	【伊豆の国果菜委員会】 青枯病対策を図るための土壌分析費用と転炉スラグ「ミネカル」の試験
	【伊豆の国わさび委員会】 夏秋季わさび苗の試験生産を図るための視察
	【農事組合法人小坂みかん共同農園】 防除作業のスマート農業導入を図るためのドローン防除
	【株ラファーム】 ミニトマト閑散期に遊休農地を活用した新規作物栽培による従業員の周年雇用体制の確立に向けたトウモロコシ用ビニールハウスの改修と枝豆収穫機の導入
あじ伊豆	【野菜部会クッキングトマト部】 選果作業の労働力軽減と規格統一を図るための選別機と磨き機の導入
	【なんすん玉葱部会】 選果作業のスマート農業を図るための選別機の導入
	【なんすん耕種するがの極専門部会】 品質向上を図るための穀物水分計10台の導入
	【西浦柑橘出荷部会】 西浦みかん寿太郎の地理的表示(GI)保護制度とアニメ「ラブライブ!サンシャイン!!」によるブランド力強化を図る出荷段ボール作成費用
	【なんすん枝豆部会】 出荷調整作業の労働力軽減を図るための脱さや機の導入と除草作業の効率化を図るためのアジャスタスプレーヤーと中耕管理機の導入
	【なんすんプチヴェール部会】 機能性表示取得に向けたマーケティング戦略のパッケージデザインなどの外部コンサル契約
	【すその大和芋部会】 出荷調整による販路拡大を図るための真空包装機の導入
御殿場	【休耕田解消グループ富士岡】 休耕田を利用した白ネギ栽培の収穫作業効率化による収穫機の導入
	【ピロール農法研究会御殿場】 ピロール米の試験栽培による認定費用と販売戦略の立案のための視察研修と販促資材作成
富士	【富士北支店しきみ部会】 しきみロング施肥作業の労働力負担軽減を図るためのJA独自肥料の試験
	【富士川キウイ部会】 出荷作業の労働力軽減に向けた農作物運搬用サンカート5台の導入
	【岩本山産直市】 産直市重点品目5品目の計画栽培提案による生産拡大に向けたマルチャーの導入
富士宮	【富士宮加工野菜部会】 定植作業のスマート農業を図るための部会共用全自動苗移植機の導入
	【富士宮苺部会】 イチゴ過熟果の冷凍保存による販路開拓に向けた保存用冷凍庫の導入



特集 JA自己改革

# 生産者の新たな挑戦をJAふじ伊豆がサポート

～「あぐりチャレンジ事業」各地区のチャレンジレポート～

JAふじ伊豆の新規事業で営農の目玉企画として、意欲ある生産者を支援する「あぐりチャレンジ事業」を展開しています。管内全域で現在28のチャレンジが進行中。今回の特集では、それぞれの「あぐりチャレンジ」をご紹介します。



## 「あぐりチャレンジ事業」とは

当JAでは、農業所得の向上や農業生産の拡大、生産組織の基盤強化に向けて、「あぐりチャレンジ事業」を実施しています。

同事業は、当JA組合員による生産組織と正組合員の法人を対象とし、事業費の90%以内で200万円を上限に助成する制度です。昨年4月1日から5月31日にかけて募集しました。

対象事業は、▼新作物・転換作物の導入▼新生産技術・改良技術の導入▼新たな需要の創造を図る販売▼試験的な取り組みなどで、当JA職員と共に計画を立てて取り組み、おおむね3年以内に一定の成果が見込めることが支援要件です。

## 28件の事業を採択

募集開始当初から申し込みがあり、31件の応募がありました。6月22日に審査会が行われ、役員や営農・経済担当部長らが審査を行いました。

審査は▼事業主自らが主体的に取り組む熱意・意欲を有しているかのチャレンジ性▼事業の目標設定が具体的に、実現可能か。実現に向けた行程が整理できているかの実行性▼機械の単純更新などの現状維持ではなく、事業実施による農業経営・所得の向上などが見込まれるかなどの妥当性▼事業

の成果が地域農業に広がり、農業振興・地域活性化が期待できるかの波及効果▼事業に創意工夫が見られ、既存の概念にとらわれず、新規性を備えているかの先進性など、10項目を厳しく審査。最終的に28件を採択し、合計助成申請金額は2718万5700円になりました。

同事業は次年度も継続する予定です。詳細は決定次第お知らせします。

## 組合員とJAの連携で 目的の達成を

「あぐりチャレンジ事業」は、新JA誕生の目玉企画の一つとして展開しています。同事業の目的はJA自己改革に掲げる「農家組合員の所得向上」「生産組織の基盤強化・農業生産の拡大」を中心に、それらを実現することで生まれる「農業による地域の活性化」です。

審査の中で、農家組合員の皆さまが苦労されている点や抱えている課題などを改めて認識できました。同事業は、助成をするだけでなく、農家組合員の皆さまと当JAが歩みを一つにして、目的を果たしていくことが最も重要です。課題を解決し、成功させたいと思います。

もう一つ期待するところは、同事業を通じてのJA営農アドバイザーのスキルアップと成長です。農家組合員の皆さまと密に接し、課題を解決する上で経験を積み、今後の業務に生かしてほしいと思います。

生産組織との意見交換会で「あぐりチャレンジ事業」を活用した組織から感謝の声や次年度の同事業へのご要望をいただいています。これらを反映させたあぐりチャレンジをさらなる農業振興につなげていきます。



営農部営農企画課長  
こばやし しんいちろう  
**小林 伸一郎**

## 「購買行動」の構築へ動画制作 SNS発信で三島甘藷を「認知」

三島函南地区三島函南甘藷部会は、SNS発信の動画を制作しました。各SNSで発信し、消費者の「購買行動」を高めています。

「購買行動」とは消費者が商品を購入する一連の行動のことです。SNSで発信し認知してもらい、インターネット販売に誘導することを指します。

動画の効果は着実に上がり、通販サイト「JATAウン」の「しずお



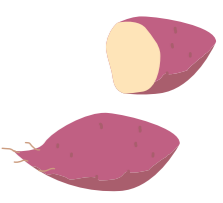
平野部会長(右)も出演のPR動画を計10本制作  
三島函南甘藷部会  
Instagram

立花耕平 営農アドバイザー  
平野部会長

か手しお屋」内の11月現在の販売ランキングで、三島甘藷は売上5位、「全国甘藷部門」でも8位に入ると躍進を見せました。

平野光直部会長は「知られていないは存在しないと同じこと。知ってもらったことで販売につながった」と話しました。

立花耕平 営農アドバイザーは「動画が販売増につながりうれし」と手応えを感じていました。



## 磨きと選果を自動化 さらなる省力化で生産拡大

あいら伊豆地区蔬菜部会クッキングトマト部では、特産「アイランドルビー」の選果・磨き機を新規導入。これまでは生産者がトマトを一個ずつ手で磨いて選果していましたが、「アイランドルビー」の芽かき作業のいろいろな品種特性を生かして栽培の省力化を図っていましたが、出荷作業に大変な労力を要していました。同機の導入により、特に磨き作業の自動化で大幅な省力化につながります。



選果・磨き機を試運転するクッキングトマト部の部員や職員



山口営農アドバイザー



篠原部長

篠原憲部会長は「トマトを磨く作業は家族総出で手間がかかっていたが、これで栽培により専念できる」と出荷増に意欲的です。

山口杏奈 営農アドバイザーは「出荷量120%増を目指し、併せて生産者数も増やしていきたい」と話します。

同部会には現在9軒の生産者が所属。あいら伊豆地区限定で新規生産者を募集しています。お問い合わせは同地区営農販売課まで。



## 生産組織とJA営農アドバイザーが2人3脚

## 「あぐりチャレンジ事業」各地区レポート

### 富士宮／富士宮加工野菜部会



生産者のほ場で全自動移植機を実演する佐野営農アドバイザー

### 令和7年度までに販売高2,000万円目標 苗の全自動移植機導入で省力化

富士宮加工野菜部会と富士宮地区営農販売課は、加工・業務用キャベツの販売高増と省力化を目指して、苗の全自動移植機を導入しました。先に半自動移植機も導入しており、さらなる省力化で部会員や栽培面積、販売高の増加に期待を寄せます。

小澤慎吾部会長は「半自動は1日で20アールだったが、全自動は40アールと倍の作業効率。有効活用し、加工・業務用キャベツの産地化を図りたい」と意気込みます。担当の営農アドバイザーは部会員を訪問し、同機の使い方の指導などの支援を行っています。

### 伊豆の国／農事組合法人・小坂みかん共同農園



急傾斜地での薬剤散布で活躍するドローン

### 急傾斜地、5ヘクタールの 広大な園地にドローン散布導入

伊豆の国地区の農事組合法人・小坂みかん共同農園は、平均年齢76歳の組合員が行う防除作業の省力化にドローン防除の実証試験を行いました。

斜度30度以上の急傾斜地の防除は重労働で限界を感じていたことからドローン防除を導入。傾斜に沿って垂直方向に散布すると薬剤の散布むらが少なくすむなどのコツも分かりました。

同組合代表理事の水口始さんは「かかる費用は手散布と変わらないが、大幅な省力化が図られ、もう手散布には戻れない」と省力性を確認しました。

### 伊豆の国／伊豆の国苺委員会



装置を確認する生産者の佐々木さん(左)と片山営農アドバイザー

### イチゴ親株の安定生産に ナノバブル水製造装置を導入

伊豆の国苺委員会は、健全なイチゴ親株の安定生産と供給体制を強化するため、ナノバブル水(超微細気泡)製造装置を親株増殖施設に導入しました。

同装置で製造したナノバブル水と通常の水と液肥を混ぜて点滴チューブに流してイチゴの親株に与える仕組み。ナノバブル水の効果で健全な根を作り、肥料を効率よく吸収。収量増や秀品率の向上・農薬の低減につながります。同施設の生産管理を務める生産者の佐々木毅さんは「親株の生育は順調で、例年以上に苗の出来がいい」と手応えを感じていました。

### 三島函南／三島函南ブロッコリー組合など



鮮度保持装置の効果を確認する菅尾販売担当

### 鮮度保持装置導入で有利販売へ 価格下落防止や安定供給に期待

三島函南地区本部や三島函南ブロッコリー組合などは、三島集出荷場の予冷庫に後付けの鮮度保持装置を導入しました。気象条件などにより農産物の集出荷量変動することで発生する、価格の下落防止や販売先への安定供給を可能にします。

同装置は庫内に静電波を放出し、食材の酸化を防ぐと共に制菌作用も発揮します。同地区本部は4品目の野菜で同装置の試験を開始。約3週間の予冷後も品質の劣化がないことを確認しました。同地区本部では鮮度維持による販売力強化を目指します。